

「笑顔は変わらない、ずっと」
dreams come...today

一九八〇年（二二二年）三田会

実行委員長 西山 勉（昭55産）



私達一九八〇年（二二二年）三田会卒業二十五周年記念事業のピクニックイベント、大同期会が三月二十六日（土）ホテルニューオータニで開催された。

卒業二十五周年記念事業を行うにあたり、「我々同期は、常に前向きな気持ちをもち続ける、明るく元気を発する仲間である。」そんな気持ちを表現する合同舞臺として「笑顔は変わらない、ずっと」というキャッチフレーズを掲げてきた。そして、この記念事業の軸めくりでもある大同期会は、ただ昔を懐かしむだけでなく、前向きに、まだまだ夢を持ち続けられるような元気の出る会にしたいと実行委員一同の考えはまとまり、そのテーマは、dreams come...todayとされた。

開場前から徐々に同期が集まり始めた。遠方にいる同期が出来るだけ出席しやういようと土曜日に設定した事が功を奏し、全国各所からのエントリーも相次いでいた。受付近くでは、既に握手をしたり抱き合ったり、記念撮影している同期達の光景が目につくほどである。会場入り口付近に張り出されていた「本日の出席者リスト」の前には、知り合いの名前を探す人達が勢ぞろいしている。四時過ぎには約一〇〇〇名の同期で会場は埋め尽くされた。暖房としていた場内の照明が落ち、一瞬の静寂の中に威勢高く鳴り響く。そして、ダンスミュージックが流れてきた。早稲手拍子がおこるなど会場内は一気に暖ムード一色となる。そして、現役応援指導部による歌謡入場。歌謡曲の調べを聞きながら、三色旗を見つめる同期の目は輝いてい



る。その日、神宮球場での卒業歌で感動をみにつめていたあの時の日の輝きだ。会場全体が二十五年前に戻った瞬間かもしれない。

安西村一郎部長からの祝詞、北原一郎連合三田会副会長のご発声による乾杯に引き続き、この日の為に製作された卒業二十五周年記念事業の軌跡をおさめた記録ビデオが上映された。最後にすでに物故者となられた同期を紹介するシーンがあった。ここであらゆる思い出を語り、いやすずであったのに、いやさ

つとこの会場のどこかに来てくれたらいいな。

司会進行役の井田由美さん、各口囃子によって会は盛りなく進行し、夢の大演劇会が始まった。我々が学生時代に夢だった、オーブシカリーに乗っての湘南アイスクリームを、会場内は歓声と涙の息につつまれた。第一編「アイナレを飾るのは、我々同期の応援指導部出身者だ。彼らのリードにより若き血、丘の上、懐懐歌を、肩を組み、大声を上げて歌った。西郷君全員による大記念撮影を終え、会は第二編へとすすんだ。

第二編ではゆっくりと歌謡曲が流れてきた。ダンスやゼミ、サークル毎のテーマも準備された。ガラスを片手に色々々なテーマを流す人、友人から紹介を受けたのであろう、「はじめまして」と名刺交換をしている人達の姿も。卒業二十五周年にして同期との新たな出会いがあららこちらで生まれている。広い会場内に響く大きな笑い声と歓声は一向におさまらない。懐懐歌の仲間達の素晴らしい。そしてこの笑顔はいつまでも変わらない事を確信し、夢のよう